



社会貢献活動

環境コミュニケーション

皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます 環境配慮方針 1-⑤

環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます 環境配慮方針 2-②

取組方針

地域の人々とともに自然環境とのふれあいを楽しみながら、地域ごとの特性に応じた地球環境や地域の自然にやさしい暮らしを培う場や仕組みづくりなどを、地域にお住まいの方々とのパートナーシップにより進めます。

また、ステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを行うことで、真に求められるまちや住まいのあり方を模索し、環境にやさしい持続的発展が可能な都市への再生を進めます。

実績

2020年度の主な活動

活動内容	
東京都 7月10日	武蔵野緑町パークタウンで野菜の移動販売を実施 https://www.ur-net.go.jp/news/20200730_touchin_musashinomidori.html
千葉県 9月2日	千葉市内のUR賃貸住宅にシェアサイクルステーションを設置 https://www.ur-net.go.jp/east/press/lrmhph000001ikpk-att/ur2020_e0901_chiba.pdf
大阪府 9月12日	香里団地でみんなの庭づくり園芸学校を開催 https://www.ur-net.go.jp/news/20201001_nishinohon_kouri.html
埼玉県 10月24日	かわつるグリーンタウン松ヶ丘団地でさつまいも収穫イベントを開催 https://www.ur-net.go.jp/news/20201027_touchin_kawatsuru.html
愛知県 10月24日	江南団地で環境学習会「どんぐり教室」を開催 https://www.ur-net.go.jp/news/20201111_cyubu_kohnan.html
福岡県 11月23日	原団地で子育て世帯を対象とした「おさんぽビンゴ」を開催 https://www.ur-net.go.jp/news/20201211_kyusyu_hara.html
神奈川県 2月17日	第24回環境コミュニケーション大賞「環境配慮促進法特定事業者賞」を受賞 ～「環境報告書 まち・住まいと環境 2020」～ https://www.ur-net.go.jp/aboutus/press/lrmhph000001pbj5-att/ur2021_press_0218_kankyo.pdf



実際に手に取って買い物。量が多ければ価格交渉も



森で拾ったどんぐりを、土に埋めます



表彰状

環境に配慮したライフスタイルに向けた取組

居住者とのコミュニケーション



環境にやさしいライフスタイルを支援

地域の方々とともに、自然環境とのふれあいや環境にやさしい暮らしを培い、継承していくことを支援したいと考えています。

適応策

NEW

CASE STUDY 環境にやさしい暮らしに向けた住民自らの活動

旧ひばりが丘団地（東京都西東京市・東久留米市）では、地域環境や価値を維持・向上させるために、住民・事業者等が連携して、主体的に取り組む“エリアマネジメント”を推進し、コミュニティ施設の運営や地元産の野菜のマルシェ、防災イベントやワー

クショップ等地域イベントの開催、情報発信等を行ってきました。2020年6月28日には、エリアマネジメント組織一般社団法人まちにわ ひばりが丘の活動主体が地域住民に移行し、さらなるコミュニティ醸成に向けた活動が期待されます。



既存テラスハウスを活用したひばりテラス 118



まちにわ ひばりが丘事務局と地域住民



にわジャム 2019 マルシェの様子

CASE STUDY 環境配慮にもつながる健康づくり（意識を高める健康増進プログラム）

居住者等の健康への意識を高めることは、例えば健康のため車ではなく徒歩を選択することでCO₂排出削減につながるなど、環境配慮にもつながります。また、高齢者の健康寿命延伸につながり、賃貸住宅の居住継続や医療費等の公的費用の抑制も期待されます。

そこで、地域住民の健康づくり推進を目的として連携協定を締結した千葉県立保健医療大学と連携した健康増進プログラムをさつきが丘団地・千草台団地（千葉県千葉市）において実施しました。

① 2020年6月27日

【口腔機能改善プログラム：さつきが丘団地】15人参加
歯科衛生学科によるオールフレイル予防の講義等

② 2020年11月7日

【ほい大健康プログラム：千草台団地】13人参加
看護学科による新型コロナウイルス感染予防の講義及びリハビリテーション学科（理学療法）による認知症予防の講義等

③ 2020年12月5日

【転倒予防教室：さつきが丘団地】9人参加
リハビリテーション学科（作業療法）による転倒予防に関する講義等

コロナ禍で地域のイベント等が中止・制限される中、本活動が地域の新たなコミュニティ醸成の貴重な機会となり、団地自治会等の関係者からも感謝の言葉をいただきました。

① 口腔機能改善プログラム



② ほい大健康プログラム



③ 転倒予防教室



緩和策

NEW

CASE STUDY 生産者と消費者を結び付けた大量廃棄ゼロの暮らし（農産物等販売会）

2020年9月14日と10月12日、地域医療福祉拠点化※を進めている虹ヶ丘団地（神奈川県川崎市）において、川崎市も目標としている地産地消の取組で生産者と消費者を直接結び付けるため、地元JAの協力のもと「農産物等販売会」を開催しました。コロナ禍による卸し先の減少で季節の野菜などの大量廃棄がクローズアップされており、問題解決の一助になることをしています。地産地消により、遠方への運搬によるCO₂排出が削減されることにもつながります。



農産物等販売会の様子

コロナ禍における食料品の買出しをサポートしようと、川崎市や地域包括支援センター等の地域関係者とUR都市機構がタッグを組んで、野菜などの農産物を中心とした食料品の販売を地元JAにお願いすることで実現しました。

当日は検温、手のアルコール除菌、かごの除菌など感染防止策を徹底し、「高齢者相談会」「見守りサービス相談会」も同時開催した結果、両日とも100人以上の方にご来場いただき、大盛況となりました。



※団地を“地域の資源”として活用し、地域に必要な住宅・施設・サービスの整備を推進することで、「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち“ミクスドコミュニティ”」を目指すもの

緩和策

NEW

CASE STUDY テレワークで環境負荷低減

2020年12月24日、室住団地（福岡県福岡市）で、リモートワークに最適な空間サービス「TiNK Desk」を提供する株式会社 tsumug（ツムグ）と共同し、団地内施設を活用したテレワーク機能導入に関する実証実験を開始しました。

住まいの近くに働く場があることで、利用者の通勤に伴う移動が減少し、環境負荷の低減が図られます。

今回の取組は、新型コロナウイルス感染拡大を契機とする新たな生活スタイルに対応するため、団地や周辺地域にお住まいのテレワークスペースを必要とする方向けに、試行的に団地内の施設を活用して、時間貸しワークスペースを無人運営にて提供するものです。



施設入口

今後、当施設の運営を通じて、住宅と近接したテレワーク機能のニーズ、適切な運営制度や必要設備などを検証し、安心して住み続けられる住環境づくりに向けた取組に活かしていきます。



ワークスペース（5席）



ワークルーム（2室）



ミーティングルーム（1室）

UR賃貸住宅にお住まいの方への環境配慮の呼びかけ

UR賃貸住宅にお住まいの方のバルコニーでの緑のカーテンづくりを支援するなど、環境配慮の呼びかけを行っています。2020年度は、栽培キットや苗を約180団地、約5,300戸の住宅へ配布・提供しました。



栽培キット

ゴーヤーの緑のカーテン

適応策

CASE STUDY 共同花壇の植え替え活動で環境美化

2020年11月20日、金町駅前団地（東京都葛飾区）にて「花壇の植え替え活動」を実施しました。当団地では、2018年に「環境美化」と「ミクストコミュニティ形成」に資するべく、UR都市機構管理花壇をコミュニティガーデンとして再整備しました。同年11月の植え付けを皮切りに、自治会を中心とした住民の皆様と定期的にお手入れや植え替えを行い、団地の「顔」として、また地域住民の交流の場としての機能を果たしています。

この日は、当初からご協力いただいているコミュニティガーデンの講師をお招きし、冬～春に向けた花の植え替えを行いました。



植え替え活動の様子

た。コロナ禍での初めての活動となり、参加者からは「花壇のお花で勇気づけられます」「花の成長が楽しみだわ」等のお声がありました。

今後も活動を継続することで、花壇が地域住民の更なる交流の場となることを期待しています。



花壇整備前の様子



整備後の花壇

建築物の環境性能の向上



環境性能の向上及び品質確保の促進

建築工事や土木工事などに、施工、工事監理、検査業務に関する技術基準を策定し、それらに則った厳しい品質確保を行っています。また、新規に建設するUR賃貸住宅では「住宅性能表示制度」による第三者評価を取得しています。住宅性能表示の実施について、募集パンフレットなどへ設計住宅性能表示を記載し、お客様への情報提供に努めました。

今後は、「建築環境総合性能評価システム (CASBEE)」等による評価などを通して、環境性能の向上に努めます。

環境に関して皆様とコミュニケーションを深める取組

居住者等とのコミュニケーション



地域やお住まいの方とのコミュニケーション

UR賃貸住宅や地域にお住まいの皆様と一緒に、ワークショップやイベント開催等を通してコミュニケーションを図り、環境配慮に向けた連携を進めています。

CASE STUDY 地域の方々に多様な暮らしをつなげる取組

2020年10月11日と18日、泉北ニュータウン泉ヶ丘駅前（大阪府堺市）の「いずみがおか広場」で開催された「つながるDays」にブースを出展しました。

これは、いずみがおか広場に集うことをきっかけに、さまざまなヒト・モノ・コトがつながり、地域ににぎわいを育むことを目的として、南海電鉄が2017年から主催しているイベントです。会場ではマルシェやインテリア雑貨の販売、キッチンカーの出店など多数の出展者による催しが開かれ、幅広い世代の方々が来場されました。11日は、南海電鉄、近畿大学医学部と連携して、ブラックライトを使用した手洗い体験や感染症予防に関する〇×クイズなどを実施しました。18日は、南海電鉄、観音山フルーツガーデン、大阪経済大学と連携して、地元のフルーツ販売を実施（地産地消）し、たくさんのお客様が連携ブースを訪れていました。

今後も地域の方々が交流し、多世代が楽しめるイベントの開催の支援など、地域の活性化に取り組んでいきます。



マルシェやキッチンカーなどがいずみがおか広場に集まりました



手洗い効果をブラックライトで確認するコーナーには興味津々



四者連携のフルーツ販売では、素材の味を活かしたジャムもありました



フルーツの魅力を伝える座談会も行われました

CASE STUDY 自然を介したコミュニケーション（野菜の植え付け・収穫）

地域医療福祉拠点化を進めているハイタウン塩浜（千葉県市川市）において、団地に出店しているコミュニティカフェ「みどりTOゆかり」（運営：東邦レオ株式会社）と連携し、団地の中央にある広場に手作りのプランターを設置し、野菜の植え付け、収穫を実施しました。これらを通じて、多世代の方による交流が生まれることにより、ミクストコミュニティの形成をめざしています。



団地の広場に設置したプランターで野菜作り



手作りのプランターに野菜を植え付け



自分たちで育てた野菜の収穫



イベントを通して、新しいつながりも生まれました

① 2020年7月26日

【野菜の植え付け】約20人の親子等が参加

手作りしたプランターに、じゃがいも、にんじん、かぶなどの秋野菜を植え付けました。植え付け後は、住民の方にも水やり等を行ってもらい、野菜を育ててきました。

② 2020年11月7日

【野菜の収穫・「塩浜えんがわ祭2020」開催】

約220人の幅広い世代の方が参加

「みどりTOゆかり」との共催で、「今までのご縁も、新たなご縁も生まれる場所」をコンセプトに、「塩浜えんがわ祭2020」と称した収穫祭を開催しました。①により植え付けをした野菜の収穫をし、その野菜を具材として豚汁を作って地域の方々にふるまいました。子どもたちは自分たちが育てた野菜がたっぷり入った豚汁に大満足の様子でした。豚汁作りに参加した地域のシニアボランティアの方々も、子どもたちから元気をもらったようです。参加された方からは「えんがわ祭をきっかけに新しい知り合いができた」との声も聞かれました。

海外展開にあたってまちづくりや
住まいづくりのノウハウ等を活用まちづくりや住まいづくりのノウハウ等を
活用した環境配慮の提案

UR都市機構が蓄積してきたまちづくりや住まいづくりのノウハウ等を活用し、関係府省、我が国事業者及び関係公的機関との連携を進めることで、我が国事業者の参入を促進し、環境に配慮した提案の実現に向けてはたらきかけています。

循環共生型都市開発等への
ニーズに対する支援

我が国事業者等の連携体制構築支援や海外展開にあたっての技術支援、専門家派遣等の人的支援を通して、アジア等の新興国において急速に高まる循環共生型都市開発等へのニーズに対する支援を行っています。

適応策

CASE STUDY 環境配慮技術を海外に展開

シドニー西部にある新空港周辺地区（エアロトロポリス）のまちづくり計画策定に関して、2019年よりオーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州政府傘下のウェスタン・パークランド・シティ公社（WPCA）へのアドバイザー業務を実施しています。

エアロトロポリスは、クリーク（河川）や大規模緑地のネットワークをまちの骨格とし、水再利用、ごみ削減、植樹による熱暑対策及び洪水対策などを考慮したまちづくりを目指して、計画の策定が進められています。

これまでの国内業務で得られた大規模都市開発や公共交通志向型都市開発に関する知見に基づいたインフラ整備計画や土地利用計画の策定、既存の住民等と協力した地域コミュニティの活性化、エネルギーや自然環境への配慮等に関するアドバイス等を行っています。また、水処理や再生可能エネルギーを含む基礎的インフラやスマートシ

ティに係る日本の先端技術等の導入についての助言等も行います。エアロトロポリスのまちづくり実現に向け、全面的に協力していきたいと考えています。



エアロトロポリス構想
出典：Delivering The Western Parkland City(2019.4)

災害復興における景観と周囲との
調和に配慮した整備地域に根ざした歴史あるまちなみとの調和に
配慮した整備

ワークショップなどを通じてコミュニティ形成を行い、地域に根ざした歴史あるまちなみとの調和に配慮した整備を行っています。

民間事業者等との連携



都市再生における民間連携

民間事業者と連携し、緑地の確保や省エネ機器の設置など環境への配慮を呼びかけるとともに、開発計画書等により環境配慮対策の把握に努めています。

CASE STUDY みどりまちづくりへのチャレンジ

2020年7月4日、うめきた2期区域内（大阪府大阪市）に「うめきた外庭 SQUARE」が2023年3月末までの1000日プロジェクトとしてオープンしました。

うめきた外庭 SQUAREは「「みどり」のリビングラボ」をコンセプトに地域の方々や行政、民間事業者とともに未来のまちづくりのための実証実験を行う活動拠点です。

これまで協力企業による新たな技術やサービスの実証実験のほか、地域連携プロジェクトとして「地域マルシェ」や「ソーシャルディスタンスパーク」、「チャレンジガーデン」などが行われています。

さまざまな属性の人が交流することにより環境コミュニケーションが自然と生まれ、うめきた周辺地域の今後の在り方を考える場となっています。

これからも「みどり」のまちづくりを隣接するエリアや周辺地域に波及させ、地域全体の価値向上に取り組んでいきます。



近隣保育園によるソーシャルディスタンスパーク



地域店舗による地域マルシェ



チャレンジガーデン

社会貢献活動



社会貢献活動の実施

さまざまな社会貢献活動を実施しています。

CASE STUDY 水源林保全を啓発



当日のはまっ子どうしを配る様子

横浜市水道局と鉄運機構、UR都市機構の共催で例年、横浜アイランドタワー（神奈川県横浜市）の外構部で打ち水イベント「打ち水大作戦」を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度は規模を縮小し、打ち水の際に配布し

てきたはまっ子どうし*の配布を9月4日に実施しました。水源林保全や環境保全に係る啓発を図るため、パネル展示やUR都市機構の環境報告書ダイジェスト配布も併せて実施し、当日は約100人の来場者に配布、啓発を実施することができました。

*はまっ子どうし The Water：横浜市の水源の一つである道志川（山梨県道志村）の清流水を詰め、ラベルにて水源林保全等に関する啓発を行い、売り上げの一部を環境貢献活動等に寄付するなど、環境にやさしい社会づくりに貢献するもの。

CASE STUDY 地元と連携した清掃活動

陸前高田復興支援事務所（岩手県陸前高田市）では社会貢献活動として当地区の一体的事業の受注者（清水建設JV）及び地元商店会が主催する清掃活動に参加しています。

陸前高田復興支援事業の基盤工事完了を迎え、2020年10月から月に一度、清水建設JVが主催する高田・今泉地区の幹線道路や生活道路のごみ拾い、雑草除去及び公園等の遊具清



商店会の方々



UR都市機構の職員

掃などの社会貢献活動に、UR都市機構職員も積極的に参加し新たに整備された

まちの景観や良好な生活環境の維持に取り組んでいます。

また、2017年4月に開業した複合商業施設「アバッセたかた」を中心としたエリアにおいて開業直後から定期的（毎週第三水曜日営業前）な清掃活動に有志職員が参加しています。現在では、嵩上げエリアに戻ってきた商業者により2018年に設立された商店会組織との、定例・合同の清掃活動が行われており、社会貢献活動の輪が広がっています。



清水建設JV主催の清掃活動

■ 集合住宅歴史館（旧技術管理分室）（東京都八王子市）の一般公開を通したUR都市機構技術の情報発信

集合住宅歴史館では、集合住宅や都市再生に関する技術の実験・研究を行ってきました。その成果を専門家だけでなく一般の方々にも広く紹介するため、施設の一般公開を行っています。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため9月末まで臨時休館としていましたが、感染対策を徹底した上で10月より公開を再開し、計117組・339人の方にご来場いただきました。ソーシャルディスタンス確保・飛沫防止の取組として、見学者にタブレットをお渡しし、説明動画を視聴しながら展示物を見学する新たな案内方式を取り入れました。

■ URひと・まち・くらしシンポジウム

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により「URひと・まち・くらしシンポジウム」を初のホームページ開催としました。「これからのまちと暮らしをデザインするー変わるもの、変わらないもの、未来への一歩ー」をテーマに、10月20日から26日の期間で有識者による基調講演・パネルディスカッションやUR都市機構職員による事業報告・研究報告の動画配信を行い、日本全国及び海外から約1,200人の方にご覧いただきました。

研究報告では、「ステークホルダーと協働する環境マネジメントーSDGsの誓いにこたえるー」「こもれびがもたらす快適なオープンスペースーURにおけるグリーンインフラの推進に向けてー」と題したUR都市機構の環境に関する取組などを報告しました。

職員研修や社内広報



職員の環境意識の啓発活動

セミナーやレポート、社内研修等を通して、職員の環境意識向上を図っています。

■都市環境セミナーの開催

外部講師の方をお招きして、社内向けの「都市環境セミナー」を計3回開催しました。

2020年度はコロナ禍を踏まえ、全社へのオンライン配信、動画やセミナー講演内容をまとめたダイジェスト資料の共有を全職員に行い、広く周知を図りました。

UR都市機構は、重要な環境課題への対応（→P.11）やステークホルダーの方々との環境コミュニケーション（→P.42）を重要視した環境配慮活動を行っています。2020年度は、こうした活動について、業務を進めていく上で全職員に自分事として捉えてもらうことを目的に、関連する最新の国内外の動向について有識者の方々に講演いただきました。

第一線で活躍している講師の方々に、グリーンインフラ（→P.32）のハード面・ソフト面の効果や、UR賃貸住宅や事業地区で実践できる手法など、幅広く講演いただいたことで、今後業務を進めていく上での気付きを得ることができたと考えています。

第1回 2020/10/6

テーマ 緑による健康効果

講師 国立大学法人 千葉大学
大学院 園芸学研究科
准教授 岩崎 寛 氏



第2回 2020/11/19

テーマ グリーンインフラとあまみず社会

講師 国立大学法人 九州大学
工学研究院環境社会部門
教授 島谷 幸宏 氏



第3回 2021/2/10～2/26（動画配信）

テーマ みどりを通じたコミュニティ形成

講師 兵庫県立人と自然の博物館
館長 中瀬 勲 氏



■職員への環境情報発信

社内報や社内掲示板等を活用して、世の中の環境に関する最新情報等を職員に提供することで、環境配慮について考えるきっかけづくりを定期的に行いました。

環境情報一覧
(抜粋)

- 気候変動対策の最新動向
- 廃棄物削減に貢献する木材利用の推進
- グリーンインフラの推進による自然環境と調和したまちづくり
- 民間企業の環境配慮事例